

制定日 2016年4月 1日

**Safety Data Sheet**  
安全性データシート

株式会社コベルコ科研  
兵庫県高砂市荒井町新浜 2丁目 3-1  
担当部門 ターゲット事業本部技術部  
電話番号 079-445-9024  
FAX 番号 079-445-9025  
緊急連絡先 同上

## 1. 品名

イットリウム

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類	項 目	Y
物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	分類できない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入・ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入・蒸気)	分類対象外
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類できない(粉塵)、分類対象外(ミスト)
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分2(肺)
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	
ラベル要素	絵表示又はシンボル	警告
	注意喚起語	分類対象外
	危険有害性情報	肺の障害のおそれ

GHS分類	項目	Y
ラベル要素 (続き)	注意書き	<p><b>【安全対策】</b> この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 粉塵・ヒュームを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p><b>【救急処置】</b> 曝露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p><b>【保管】</b> 施錠して保管すること。</p> <p><b>【廃棄】</b> 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>
	国・地域情報:	-----

### 3. 組成・成分情報

単一物質・混合物の区別	単一物質
化学名	イットリウム
化学式または構造式	Y
官報公示整理番号 (安衛法、化審法)	-----
CAS番号	7440-65-5
国連分類および国連番号	-----

### 4. 応急措置

目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	付着または接触部を石けん水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流し、速やかに医師の診察を受ける。
吸入した場合	直ちに被災者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気のある場所に移し、速やかに医師の診察を受ける。呼吸困難または呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行う。
飲み込んだ場合	意識があるときは吐かせて口の中を水でよく洗浄する。直ちに医師の手当てを受ける。

### 5. 火災時の配置消火剤

消火剤	小火災:二酸化炭素、粉末消火器、砂、土、一般の泡消火器 大火災:散水、噴霧水、通常の泡消火剤
火災時の特定危険 有害性	摩擦、熱、火花及び火炎で発火する恐れがある。 フレア-燃焼効果により速やかに燃焼するおそれがある。 爆発したり、爆発的な激しさで燃焼する恐れがある。 火災によって刺激性、又は毒性のガスを発生する恐れがある。
特有の消火方法	散水によって逆に火災が広がる恐れがある場合には、上記人示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

## 6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(8. ばく露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 風上に留まる。低地から離れる
環境に対する注意事項:	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
回収、中和:	少量の場合、漏洩物は清潔な帯電防止工具を用いて集め、清潔な乾燥した容器に入れ、ゆるく覆いをし、後で、廃棄処理する。 大量の場合、水で湿らせ、防護囲いをし、後で、廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法・機材:	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策:	全ての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	<b>技術的対策:</b> 第8項記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 <b>局所排気・全体換気:</b> 第8項記載の局所排気、全体換気を行う。 <b>安全取扱い注意事項:</b> 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 接触、吸入又は飲み込んではいならない。粉じんを吸入しないこと。ヒュームを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 <b>接触回避:</b> 第10項を参照
貯蔵	<b>技術的対策:</b> 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 <b>混触危険物質:</b> 第10項を参照 <b>保管条件:</b> 熱、火花、裸火のような着火源から話して保管すること。ー禁煙。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 酸化剤から離して保管する。容器を密閉して保管すること。 <b>容器包装材料:</b> 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	-----
許容濃度	日本産業衛生学会(2005年版) 設定されていない。 ACGIH(2005年版) TLV-TWA 1 mg/m <sup>3</sup> (イットリウム及びその化合物 イットリウムとして)
設備対策	防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。
保護具	呼吸用保護具: 吸保護具の使用の要求される環境下では、呼吸保護具を着用する。
	保護眼鏡: 適当な保護眼鏡もしくは安全眼鏡を着用する。
	保護手袋: 皮膚の露出を防ぐために適当な手袋を着用する。
	保護衣: 皮膚の露出を防ぐために適当な保護衣を着用する。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観等	暗灰色の光沢のある金属
沸点:°C	3338°C
蒸気圧:Pa(20°C)	情報が入手できません。
揮発性	情報が入手できません。
融点:°C	1522°C
比重または嵩比重	4.4689
溶解度	水%(°C):不溶 その他の溶媒%(°C):
その他	-----

## 10. 安定性及び反応性

引火点:°C	情報が入手できません。
発火点:°C	情報が入手できません。
爆発限界:上眼% 下限%	情報が入手できません。
可燃性	情報が入手できません。
発火性(自然発火性・水との反応性)	情報が入手できません。
酸化性	情報が入手できません。
自己反応性・爆発性	情報が入手できません。
粉じん爆発性	情報が入手できません。
安定性・反応性	<p><b>安定性:</b> 空气中で容易に表面が酸化される。</p> <p><b>危険有害反応可能性:</b> 強酸類、強塩基類、強酸化剤、ハロゲン類と激しく反応する。</p> <p><b>避けるべき条件:</b> 特になし。</p> <p><b>混触危険物質:</b> 強酸類、強塩基類、強酸化剤、ハロゲン類。</p> <p><b>危険有害な分解性生物:</b> 該当しない。</p>
その他	-----

## 11. 有害性情報

腐食性	情報が入手できません。
刺激性(皮膚、眼)	情報が入手できません。
感作性	情報が入手できません。
急性毒性 (50%致死量を含む)	情報が入手できません。
亜急性毒性	情報が入手できません。
慢性毒性	情報が入手できません。
がん原性	情報が入手できません。
変異原性 (微生物、染色体異)	情報が入手できません。
生殖毒性	情報が入手できません。
催奇毒性	情報が入手できません。
その他(水と反応して有害なガスを発生する等を含む)	<p><b>単回曝露:</b> 「動物において希土類金属の吸入曝露は、肺に炎症を起すことは明白である」の記載から、イットリウム吸入曝露は肺への局所刺激により炎症を起すと考えられる。肺の障害のおそれ(区分2)。</p> <p><b>反復曝露:</b> 「希土類金属の慢性的な曝露は、おそらくヒトにじん肺を起す」</p>

## 12. 環境影響情報

情報が入手できません。

## 13. 廃棄上の注意

再利用のため回収します。

## 14. 輸送上の注意

キズが付きやすいので落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9) (政令番号 第54号)
労働基準法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	第 2 類可燃性固体、金属粉(法第 2 条第 7 項危険物別表第1)
危険物船舶運送及び貯蔵規則	可燃性物質類・可燃性物質 (危険則第2,3上危険物告示別表第1) (施行規則第194条危険物告示別表第1)
PRTR法	非該当

## 16. その他

<b>その他</b> (記載内容の 問い合わせ先、 引用文献等)	記載内容の問い合わせ先	株式会社コベルコ科研
	引用文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACGIH発行TLV<sub>s</sub><sup>®</sup> and BEI<sub>s</sub><sup>®</sup>2005</li> <li>・厚生労働省:職場の安全サイト  <a href="http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx">http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx</a></li> <li>・安全衛生情報センター  <a href="http://www.jaish.gr.jp/">http://www.jaish.gr.jp/</a>  <a href="http://www.nihs.go.jp/ICSC/">http://www.nihs.go.jp/ICSC/</a> 他</li> </ul>
	改訂履歴	Rev.0: 新規制定

\* 危険・有害性の情報は十分ではありません。また、本文書は安全の保証書ではありません